

避難所生活 子どもら体験

地域の避難場所になっている栃木市の県立学悠館高校で27日、「子ども・小学生のための防災講座」が行われた。県内各地の小学生など65人が、地震を想定した訓練に参加。避難者のスペース作りや、高校生が扮する「帰宅困難者」の受け入れなど、自分たちで問題を解決する本番さながらの避難所生活を体験した。

栃木・学悠館高で防災講座

や教師ら40人余りが参加した。

同校は2005年に開校。らは小学生を主な対象にした定時制・通信制高校。て実施している。同校の青09年から地域住民と連携し、少年赤十字(JRC)部の難。7班に分かれて、段ボた防災講座を開き、昨年から主催で、高校側からは生徒ールや備品のマット、仕切

午後0時40分、「地震発

生」のアナウンスが流れる

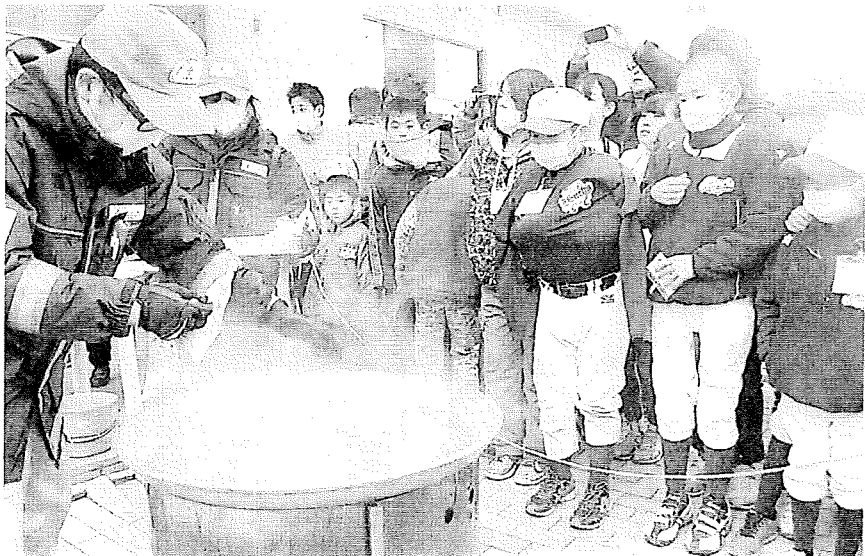
と、参加者は体育館に避

難。7班に分かれて、段ボ

ールや備品のマット、仕切



自分たちで作った避難スペースで、難問を話し合いながら解決する子どもたち



大釜を使った非常食の炊き出し訓練も行われた。いずれも栃木市の学悠館高校

食料不足・迷惑行為…問題も自力解決

りなどを使い避難者が過ぐすスペースを作った。

ところが、避難所では問題が次々と発生……。食料は人数分に足りず、高校生が扮した「帰宅困難者」

「足にけがをした人」「目の不自由な人」「日本語が話せない外国人」「携帯でうるさく音楽をかける人」

などが立て続けに登場した。問題をどうするか、子どもたちだけで相談。食料を平等に分け、迷惑な人には注意するなど、全ての問題を解決していった。

非常食の炊き出し訓練も体験。ポリ袋に入れた米をカレー味やキムチ味など好みに味付けし、大釜で炊いてもらい味わった。

2年連続で友だちと参加した小山市の稲葉和未さん(小5)は「避難をする時にどうしたらよいかわかったし、知らない人と仲良くなれた」。主催したJRC部の成尾裕加梨部長は「活発な子もそうでない子も協力して、問題を解決できた。いざというときに役立つと思う」と語った。

(平井隆昭)